

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題

「現代アラブ君主制における正統性原理の変容と再興—イスラーム主義との相克」

2020年度第1回研究会（通算第2回目）実施報告

日時 2020年12月18日 17:30~19:30（日本時間）

場所 オンライン開催（Zoom）

参加者 8名（飯塚、石黒、錦田、堀抜、白谷、村上、ゼルハウニー、マグラーウィー）

内容

報告：石黒大岳（AA研共同研究員・アジア経済研究所）

"How to measure the resilience of monarchies in MENA region"

コメント Saloua ZERHOUNI (AA研共同研究員・Mohammed V University of Rabat)

Driss MAGHRAOUI (AA研共同研究員・Al Akhwayn University)

本研究会は、アラブ君主制8カ国（モロッコ、ヨルダン、サウジアラビア、オマーン、UAE、カタール、バーレーン、クウェート）の政治変動に対する耐性に着目し、体制の安定性がどのように維持されてきたのか、そのメカニズムの解明を目的とする。本来であれば、東京（AA研）と、ベイルート（JaCMES）とで交互の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受けて、本年度はオンラインでの研究会の開催となった。

研究会ではまず、冒頭で前回欠席されていた共同研究員の自己紹介を行った後、代表の石黒がこれまでの研究会の経緯と、そこで展開されてきた議論について説明した。その後に、主に前回の欠席メンバーから、アラブ君主制の安定メカニズムに関する最近の研究動向の紹介や、イスラーム主義とのかかわりについて新たな視点について議論が提供された。ここでは君主制が維持される背景として、もっと権威主義体制としての側面や、体制を維持するための抑圧や恐怖の利用などにも注目すべきとの指摘や、個人統治の復活という動向にも近年では注目が集まっていることなどが意見交換で共有された。

こうした議論を踏まえて本研究会では、今後の研究会での議論の方向性と、各共同研究員が今後執筆を進める内容の調整を図るために、数点のキーワードと成果論集の骨子をまとめて、次回研究会までに共有することにした。オンラインのクラウド・フォルダ上に各自がアップロードし、その内容をもとに次回研究会で各自が簡単に報告をし、議論を深めることになった。各共同研究員が執筆する予定の研究対象国とおおまかな内容については、今回の研究会の最後に口頭で共有され、分担が決められた。次回研究会が約1か月後と近い日程で設定されていることから、連続的な開催で今後の方向性が明確に定まることが期待され

る進み方となった。

(以上)